

えがお ふれあい たかめあい  
きらい かがやく  
あざ二っ子

横浜市立あざみ野第二小学校  
学校だより 新年号

第 11 号 令和 3 年 1 月 8 日 発行

学校だよりはホームページにも掲載されています。学校日記も更新中です。ぜひご覧ください。  
青葉区あざみ野三丁目 29 番地 3  
TEL 045-902-4866



## 残り、わずかでも

校長 三瓶 淳

年末に「よいお年を〜♪」とあいさつをしながら家路についた子どもたちが、「おはようございま〜す！」と元気に学校に戻って来ました。改めて感じたのは、子どもたちの発するエネルギーの凄さです。私事になりますが、年末に親から初めて「帰って来ない方がいい。」と言われ、帰省を迷っていた私でさえ衝撃を受けました。年末年始は自宅で過ごしましたが、節目がなかったというか、彩がなかったというか、それ故にもやもやした気分での仕事始めとなりました。そんな私を目覚めさせてくれたのは、間違いなく子どもたちの元気な姿です。今は、年末よりさらにコロナ対策をしっかりと取らなければいけない状態ですが、残された授業日数の中、子どもたちには学校で学ぶ楽しさをさらに伝えていきたいと思いました。

さて、例年冬休みには、6年生が書いた卒業文集の添削を請け負っています。顔を思い出しながら読み、印象だけでは分からなかった決意や夢、行事に対する思いや感想に私自身、気付かされることがたくさんありました。だれもが知っているような著名人は、決まって小学校時代の作文が紹介されます。夢や目標をもち、かなえることができた人は、そう思わせる環境が子どもの頃から身近にあるようです。それは、子どもたちの文章を借りるとするなら、「興味・関心があることをとことん追求させてくれる家庭環境」だったり、「病気や怪我で家族や親族が困っている時に対応してくれた方の言動」だったり、「所属するクラブチームのコーチの一言」だったりします。中には友達からの声掛けがうれしくて、自分自身の弱い性格を変えたいと思った子どももいました。どれをとってみても自ら気付き、考え、行動し、壁を感じても乗り越えようとした姿であり、成長を感じました。

ところで、毎年楽しみにしている年末年始のスポーツ番組の一つ、全国高校バスケットボール選手権大会（通称ウィンターカップ）では、宮城県代表の明成高校が第3Q終了時点で42対55と劣勢だったのですが、最後まで足を止めずに守り続け残り5秒で逆転優勝を成し遂げました。また、お正月恒例の箱根駅伝でも、往路3位の駒澤大学は、往路優勝した創価大学を追走し続け、一時は監督自らあきらめかけたレースを残り2kmで逆転しました。どちらも「残り、わずか」になっても、最後まで勝負をあきらめなかった結果です。スポーツだけにとどまらず、普段の学習も「分かった」「できた」というだけで満足せず、人に教えたり、得意になるまでやり通したりするとその後の大きな力となるのではないのでしょうか。

この学校だよりが発行される頃には、今年度の残り授業日数は約50日です。コロナ禍の収束は当分先になりそうな気配ですが、教育委員会のガイドラインに沿って、子どもたちの学びを止めず、こんな状況でもよりよい学校生活にしていきたいと思えます。今年もよろしく願いいたします。